

## 佐賀県富士町における小規模林家の施業行動

九州大学農学部 青木 尊重  
 佐賀県 林務課 池田 善之  
 佐賀県 林務課 松本 光男

### 1. 調査の目的

戦後に拡大造林された地帯での家族労作型の小規模の農林複合経営体において

(1) 手持労力が、米作・蔬菜作・山林作業等の農林各作業に、どのように配分されているものなのか。

(2) 現在、林業部門からある程度の収入をえている家で、目下採用しているスギの品種なり、そのスギ人工林の令級構成なり、それへの投入労力量なりは、どうなっているのかが知りたかった。

### 2. 林業の現状

富士町の林野面積は 117km<sup>2</sup>、民有林は96km<sup>2</sup>で、人工林率は81%である。その令級別面積をみると、昭和30年以降急速に人工林化が進められたため、25年生以下の林分が90%を占めている。(表-1)

表-1 富士町の民有林のスギ・ヒノキ人工林の令級別面積 (ha)

令級 樹種	I~II	III~V	VI~VII	Ⅷ以上	計	(比率)
スギ	1,486 (21)	4,898 (69)	666 (9)	71 (1)	7,121 (100)	(90)
ヒノキ	398 (52)	302 (39)	43 (6)	21 (3)	764 (100)	(10)
計	1,884 (24)	5,200 (66)	709 (9)	92 (1)	7,885 (100)	(100)

### 3. 調査対象林家の経営実態

人口の過疎化・高賃金化と所有規模の零細性・分散性ならびに若令人工林主体の現況下、家計を支える主幹作目への労力配分や蓄積過程としての山林への労力配分のありようについて、14戸の林家を対象に聞き取り調査した。農地・林地の保有面積と労働力構成と現金収入面等を一覧表に取りまとめたのが表-2である。

### 4. 調査の結果

(1) 家族労作的農林複合経営体における労力配分の

あり方は、「一定の労力の投入によって、最大の効用がもたらされる」ようにとの配慮がなされている。

ある一定水準の所得(富士町の場合、おおむね、成人1人当り 100~120万円)をうるために、家族労力の配分は、暖季は米作と蔬菜作に、寒季は貸仕事か山林の作業に主体がおかれているように思われた。土工にはB・H・Iにみられるように若人が、山林には世帯主とその妻が主として従事している傾向がみられた。

(2) 年間45~120万円の木材収入をあげている家(A・C・D・F・M)では収入間伐可能のスギ林を2ha以上もっており、また家計収入中に林業部門からの産出をある程度期待せざるをえない事情にある家と判断され、一般的には1ha当り年間10~16人の労力投入なのに、G・Eでは20人以上の労力を投入している。このように森林施業行動の濃淡の上にも、それが強く反映しているもののように思われた。その他L・Nは稚芽で、C・M・Nは苗木で家計を補充している。またA・E・Fはミショウスギを、Cはオオノスギを採用して、早目に収入があがるような集約施業を実施中である。

(3) 家計にゆとりある家(B・G・H・J・K)では、家産造成としての重味が強くアヤスギで中長伐期の中大径材生産を志向している。過去における病虫害風雪害等の被害経験を生かして、いねいに地拵・植栽した若令林への周到な保育と早目の間伐・枝打を実施し、柱材は勿論造作材をも生産する施業を進めている。

跡取り夫妻が花や酪農を専門にしている家(A・G)では、世帯主のみが山林作業に従事しており、山林の性格を所謂「年金山」に位置づけしている。

(4) 3世代家族で、米と蔬菜と土工により444万円の年収をえている家(B)では、世帯主とその父親によって極めて集約な森林施業の展開がみられる。一方Iのような母子2人家族で米と蔬菜と土工により205万円の年収をえている家では、跡取りが土工に出るため、山林の保育に従事するのは母親1人となるので、持山の1/3程度しか十分な保育ができずにいる。

表一 調査対象林家の農地・スギ林の面積・作目別推定粗収入・家族の作目別年間就労日数一覽表

	農地		スギ林の令級別面積 (ha)					その他の 林分 (ha)	推定粗収入 (万円)					家族の作目別年間就労日数 (日)								
	水田 ha (t)	畑 ha (t)	10年生 以下	11~25 年生	26~40 年生	41年生 以上	計		米	花 (畜産)	木材	蔬菜 その他	苗木 (樺芽)	土工	計	父	母	世帯主	妻	姉	取 嫁	計
N	1.14 (5.47)		1.8	1.1	—	0.1	3.0	1.4	152				40 (160)	352	農 10 芽 30		林 30 農 120 芽 110	林 15 農 110 芽 90	(公務員) 農 30 芽 30			林 45 農 270 芽 260
L	0.90 (4.05)	0.12 (3.71)	0.7	2.7	0.3	0.1	3.8	1.8	112	(20)		64	(150)	346		林 50 農 80 畜 30	農 70 畜 15	農 150 芽 130		芽 90 農 100 畜 20	林 50 農 400 畜 65 芽 220	
E	0.72 (3.17)	0.56 (18.40)	3.1	0.8	0.1	—	4.0	1.0	88		45	133		266	林若干	農若干	林 70 農 200	林 40 農 170			林 110 農 370	
K	0.50 (2.40)	0.90 (12.88)	1.1	3.0	0.1	—	4.2	0.3	66			275		341			林 35 農 60	農 120	林 15 農 260	林 15 農 200	林 65 農 640	
G	1.50 (7.20)		4.1	1.9	0.8	0.2	7.0	1.0	199	(700)				899			林 160 農 90	農 70	酪 250 農 60	酪 220 農 40	林 160 農 260 酪 470	
I	0.77 (3.39)	0.10 (2.26)	4.3	1.9	0.8	0.2	7.2	0.9	94		36		75	205		林 30 農 150	土 150 農 130				林 30 農 280 土工 150	
B	1.40 (6.16)	0.85 (12.88)	4.6	2.1	0.8	0.2	7.7	0.3	170		184		90	444	林 220		林 60 農 170	農 130	農 100 土工 180	農 210	林 280 農 610 土工 180	
H	1.50 (6.90)	0.36 (7.25)	4.6	2.1	0.9	0.2	7.8	0.7	191	(25)	110		80	406			林 80 農 130	農 50	農 190 土工 100	農 150 土工 70	林 80 農 520 土工 170	
J	1.40 (6.72)	0.34 (9.84)	3.0	5.0	0.5	0.7	9.2	1.7	186		232			418		農 170	林 60 農 240	林 40 農 200			林 100 農 610	
C	1.20 (5.64)	0.05 (1.13)	5.8	2.7	1.1	0.3	9.9	0.1	156		100	18	28	302			林 210 農 50	農 203			林 210 農 253	
F	1.20 (5.40)	0.10 (6.40)	6.8	1.8	2.6	0.6	11.8	1.3	150		45	114		309	農若干		林 65 農 150	林 36 農 120	林 83 農 190	農 22	林 184 農 482	
A	1.00 (4.40)		7.3	1.9	2.8	0.6	12.6	0.7	121	850	25			996			林 120 農 60	農 40	花 270 農 40	花 200 農 30	林 120 花 470 農 170	
M	1.40 (6.72)	0.10 (6.40)	11.6	3.0	4.4	1.0	20.0	15.0	186		120	100	483	889			林 40 農 120 苗 120	林 30 農 70 苗 90			林 70 農 190 苗 210	
D	0.60 (2.70)		22.0	5.7	8.4	1.9	38.0	2.0	74		70	32		176			林 190 農 75	農 90			林 190 農 165	